

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3794466号
(P3794466)

(45) 発行日 平成18年7月5日(2006.7.5)

(24) 登録日 平成18年4月21日(2006.4.21)

(51) Int. Cl.	F I
E O 5 C 19/06 (2006.01)	E O 5 C 19/06 C
B 6 O R 7/06 (2006.01)	B 6 O R 7/06 G
E O 5 C 21/00 (2006.01)	E O 5 C 21/00 A

請求項の数 5 (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2000-77143 (P2000-77143)	(73) 特許権者	000124096
(22) 出願日	平成12年3月17日(2000.3.17)		株式会社パイオラックス
(65) 公開番号	特開2001-262916 (P2001-262916A)		神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町51番地
(43) 公開日	平成13年9月26日(2001.9.26)	(74) 代理人	100101867
審査請求日	平成15年6月17日(2003.6.17)		弁理士 山本 寿武
		(72) 発明者	加藤 幸一
			神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町51番地
			株式会社パイオラックス内
		審査官	鈴木 秀幹
		(56) 参考文献	実開昭63-078670 (JP, U)
			実開昭58-062754 (JP, U)
			実開平01-105166 (JP, U)
			実開昭60-029876 (JP, U)
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 開閉ロック装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

収納部の開口に設けた扉を開閉するとともに、該扉の閉塞状態を保持するための開閉ロック装置において、

前記収納部の開口縁部に設けた棒状のストライカと、

前記扉に設けられ、該扉の開閉に伴い正面開口部から前記ストライカを挿脱自在な鉤状のフック部を有する装置本体と、

前記装置本体に組み込まれ、前記フック部の正面開口部に出没自在なロック爪と、

前記フック部の両側面から外側方向へそれぞれ延出し、前記ストライカを先端部で受け止めるとともに、前記ロック爪と協同して該ストライカを保持する弾性支持片とを備え、

前記弾性支持片は、前記フック部とともに装置本体に一体成形されて、

前記ストライカの間軸部は、前記フック部の幅を超えて、前記弾性支持片と対向する長さを有し、

前記弾性支持片の先端部は、その前面が前記フック部の後部壁の内面より前方に配置され、

扉閉塞動作時に、前記ストライカが前記フック部内に入り込むとともに、

前記ストライカは、前記弾性支持片とまず当接し、続いて前記フック部の後部壁に当接する構成としてあることを特徴とする開閉ロック装置。

【請求項2】

収納部の開口に設けた扉を開閉するとともに、該扉の閉塞状態を保持するための開閉ロ

10

20

ック装置において、

前記収納部の開口縁部に設けた棒状のストライカと、

前記扉に設けられ、該扉の開閉に伴い正面開口部から前記ストライカを挿脱自在な鉤状のフック部を上面に有する装置本体と、

前記装置本体に組み込まれ、前記フック部の正面開口部に出没自在なロック爪と、

前記フック部の両側方でかつ前記装置本体の上面から上方向へ延出し、前記ストライカを先端部で受け止めるとともに、前記ロック爪と協同して該ストライカを保持する弾性支持片とを備え、

前記弾性支持片は、前記フック部とともに装置本体に一体成形されて、

前記ストライカの間軸部は、前記フック部の幅を超えて、前記弾性支持片と対向する長さを有し、

前記弾性支持片の先端部は、その前面が前記フック部の後部壁の内面より前方に配置され、

扉閉塞動作時に、前記ストライカが前記フック部内に入り込むとともに、

前記ストライカは、前記弾性支持片とまず当接し、続いて前記フック部の後部壁に当接する構成としてあることを特徴とする開閉ロック装置。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 記載の開閉ロック装置において、

前記弾性支持片は、前記フック部を中心としてその両側対称位置に形成してあることを特徴とする開閉ロック装置。

【請求項 4】

収納部の開口に設けた扉を開閉するとともに、該扉の閉塞状態を保持するための開閉ロック装置において、

前記収納部の開口縁部に設けた棒状のストライカと、

前記扉に設けられ、該扉の開閉に伴い正面開口部から前記ストライカを挿脱自在な鉤状のフック部を上面に有する装置本体と、

前記装置本体に組み込まれ、前記フック部の正面開口部に出没自在なロック爪と、

前記装置本体の上面でかつ前記フック部を中心としてその両側対称位置から上方向へ延出し、前記ストライカを協同して保持する一対の弾性支持片とを備え、

前記弾性支持片は、前記フック部とともに装置本体に一体成形されて、

前記ストライカの間軸部は、前記フック部の幅を超えて、前記弾性支持片と対向する長さを有し、

前記弾性支持片の先端部は、その前面が前記フック部の後部壁の内面より前方に配置され、

扉閉塞動作時に、前記ストライカが前記フック部内に入り込むとともに、

前記ストライカは、前記弾性支持片とまず当接し、続いて前記フック部の後部壁に当接する構成としてあることを特徴とする開閉ロック装置。

【請求項 5】

請求項 1 乃至 4 のいずれか一項に記載の開閉ロック装置において、

前記弾性支持片は、支持端付近の肉厚を前記ストライカが当接する先端部に比べ薄く形成した片持ち片であることを特徴とする開閉ロック装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は、例えば、自動車の室内に設けられたグローブボックス等の扉を開閉する開閉ロック装置に関し、特に扉閉塞時のがたつきを防止するための改良に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来、扉閉塞時のがたつき防止を目的としたロック開閉装置として、例えば、実開昭 5 8 - 6 2 7 5 4 号公報（従来例 1）や実開昭 6 3 - 7 8 6 7 0 号公報（従来例 2）に示すも

10

20

30

40

50

のがある。これらの開閉ロック装置は、具体的には図示しないが、グローブボックス（収納部）の開口縁部にストライカと称するコ字状に屈曲した金具を設けるとともに、その開口を開閉する扉にフック及びロック爪を有する本体が設けてある。ストライカは、扉の閉塞動作に伴いフック内に入り込み、該動作に追従してロック爪がフックの正面開口部を閉塞する構成となっている。これにより、ストライカがフック内に保持されて、扉は閉塞状態を維持する。

【0003】

さらに、従来例1は、金属製のばね片をフック内に延出配置してあり、このばね片とロック爪とが協同してストライカを隙間なく保持することにより、扉閉塞時のがたつきを防止する構成を有している。一方、従来例2は、ゴム等の弾性体からなるストッパをフック内に装着し、このストッパとロック爪とが協同してストライカを隙間なく保持することにより、扉閉塞時のがたつきを防止する構成を有している。

10

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

上述したいずれの従来例においても、扉閉塞時のがたつきを防止するばね片やストッパが、フックを形成する本体とは別部品であるために、本体への組付け作業を必要とし、組立て工数の増加に伴う作業の煩雑化が問題となる。

特に、従来例2のストッパは、フックの壁面に穿設した小さな装着孔にストッパの背面突起部を圧入して組み付けるため、その作業は細かな手作業となり生産性の低下に大きな影響を及ぼしていた。しかも、ゴム等の弾性体からなるストッパは複雑な形状となっており、その成形作業が煩雑でかつ部品コストも高価格であった。

20

【0005】

また、従来例1のばね片は金属材料で形成されていたので、同じく金属材料からなるストライカの当接時に、金属どうしの衝突に伴う甲高い打音が発生し、ユーザに不快感を与えることがあった。

本発明はこのような従来の問題を解決するためになされたもので、ストライカのがたつきを防止するとともに、部品点数の削減による組立て作業の容易化と製品コストの低価格化を実現することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、請求項1記載の発明は、収納部の開口に設けた扉を開閉するとともに、該扉の閉塞状態を保持するための開閉ロック装置において、前記収納部の開口縁部に設けたストライカと、前記扉に設けられ、該扉の開閉に伴い正面開口部から前記ストライカを挿脱自在な鉤状のフック部を有する装置本体と、前記装置本体に組み込まれ、前記フック部の正面開口部に出没自在なロック爪と、前記フック部の側面から延出し、前記ストライカを先端部で受け止めるとともに、前記ロック爪と協同して該ストライカを保持する弾性支持片とを備え、前記弾性支持片は、前記フック部とともに装置本体に一体成形されていることを特徴とする。

30

【0007】

また、請求項2記載の発明は、収納部の開口に設けた扉を開閉するとともに、該扉の閉塞状態を保持するための開閉ロック装置において、前記収納部の開口縁部に設けたストライカと、前記扉に設けられ、該扉の開閉に伴い正面開口部から前記ストライカを挿脱自在な鉤状のフック部を上面に有する装置本体と、前記装置本体に組み込まれ、前記フック部の正面開口部に出没自在なロック爪と、前記装置本体の上面でかつ前記フック部の側方から延出し、前記ストライカを先端部で受け止めるとともに、前記ロック爪と協同して該ストライカを保持する弾性支持片とを備え、前記弾性支持片は、前記フック部とともに装置本体に一体成形されていることを特徴とする。

40

【0008】

請求項3記載の発明は、請求項1又は2を前提として、前記弾性支持片は、前記フック部を中心としてその両側対称位置に形成してあることを特徴とする。

50

【0009】

請求項4記載の発明は、収納部の開口に設けた扉を開閉するとともに、該扉の閉塞状態を保持するための開閉ロック装置において、前記収納部の開口縁部に設けたストライカと、前記扉に設けられ、該扉の開閉に伴い正面開口部から前記ストライカを挿脱自在な鉤状のフック部を上面に有する装置本体と、前記装置本体に組み込まれ、前記フック部の正面開口部に出没自在なロック爪と、前記装置本体の上面でかつ前記フック部を中心としてその両側対称位置から延出し、前記ストライカを協同して保持する一对の弾性支持片とを備え、前記弾性支持片は、前記フック部とともに装置本体に一体成形されていることを特徴とする。

【0010】

さらに、請求項5記載の発明は、請求項1乃至4のいずれかを前提として、前記弾性支持片は、支持端付近の肉厚を前記ストライカが当接する先端部に比べ薄く形成した片持ち片であることを特徴とする。

【0011】

よって、請求項1及び2記載の発明によれば、弾性支持片がストライカを弾力的に受け止めるので、扉閉塞時の衝撃が緩和される。その後、弾性支持片とロック爪とが協同してストライカを保持するので、ストライカひいては扉のがたつきを有効に防止することができる。弾性支持片は、フック部と一体に形成されているので組付けの必要がなく、したがって組み立て工数が減少して作業性の向上が図られる。

【0012】

請求項3記載の発明によれば、たとえフック部にストライカが傾きをもって挿入されても、フック部を中心としてその両側対称位置に形成した弾性支持片のいずれか一方がストライカを受け止め、ロック爪と協同してストライカを保持することができる。

【0013】

請求項4記載の発明によれば、一对の弾性支持片が協同してストライカを保持するので、ストライカひいては扉のがたつきを有効に防止することができる。本発明においても、弾性支持片は、フック部と一体に形成されているので組付けの必要がなく、したがって組み立て工数が減少して作業性の向上が図られる。

【0014】

請求項5記載の発明によれば、弾性支持片（片持ち片）の支持端付近の肉厚を薄くすることで、弾性支持片が支持端付近を支点としてしなやかに変形するので、急激な閉塞動作に伴うストライカの衝突に追従して弾性支持片がたわみ変形し、該弾性支持片の破損を防止することができる。

【0015】

【発明の実施の形態】

以下、本発明を自動車室内のグローブボックスに適用した実施の形態について、図面を参照して詳細に説明する。

自動車室内に小物品等の収納部として形成されるグローブボックスは、前面に開口を有するとともに、支軸を中心に回動自在な扉によってこの開口を開閉自在とする構造になっている。本実施の形態に係る開閉ロック装置は、図1に示す如くグローブボックス（収納部）1の開口縁部1aに取り付けられるストライカ10と、扉2に取り付けられる装置本体20と、図2に示す如く装置本体20に組み付けられるロック爪40、コイルばね（付勢部材）50、及び操作ノブ60の各構成部品を備えている。

【0016】

ここで、装置本体20は、合成樹脂を材料として射出成形により一体成形された樹脂成形品である。また、ロック爪40及び操作ノブ60も、それぞれ別個に成形された樹脂成形品である。

【0017】

ストライカ10は、図5に想像線で示す如く平面コ字状に屈曲形成した棒状の金属部品であり、両端部が図1に示す如くグローブボックスの開口縁部1aの略中央に固定されてお

10

20

30

40

50

り、屈曲部間の中間軸部 10 a が後述するように装置本体 20 のフック部 21 内に係脱自在となっている。

【0018】

装置本体 20 は、図 2 に示す如く、正面の適所に位置決め突起 22 a が形成してあり、かつ上面の後端角部から扉への装着爪 22 b が延出して形成してある。扉 2 の上端中央部には、図 1 に示す如く装置本体 20 を装着するための凹部 2 a が形成してあり、この凹部 2 a の正面適所に形成してある位置決め孔（具体的には図示せず）に、装置本体 20 の位置決め突起 22 a を係合するとともに、凹部 2 a の上端縁部から下方に張り出した取付け板 2 b に装着爪 22 b を係合させて、扉 2 への装着がなされる。

【0019】

なお、装置本体 20 が装着される扉 2 の凹部 2 a には、後述する装置本体 20 のフック部 21 の対向位置に切欠き孔 2 c が形成してあり（図 1 参照）、この切欠き孔 2 c を透してストライカ 10 がフック部 21 に係合する。

【0020】

装置本体 20 には、図 2 に示す如く上面中央部に鉤状に湾曲したフック部 21 が正面を開口部 21 a として突き出し形成してある。このフック部 21 内の空間は、図 1 に示す如くストライカ 10 の中間軸部 10 a が入り込める十分な深さを有している。ストライカ 10 は扉 2 の閉塞動作に伴い、フック部 21 の正面開口部 21 a から該フック部 21 の内部に入り込む。

【0021】

また、装置本体 20 には、図 2 に示す如く上面中央部から内部に向かって縦方向にロック爪 40 の収納溝 23 が形成してあり、さらに収納溝 23 の左右内側面には、それぞれガイド溝 24 が縦方向に形成してある。一方、ロック爪 40 の左右側面にはガイド溝 24 と係合する突条 41 が形成してある。

【0022】

収納溝 23 には、図 2 に示す如く上面の開口からまずコイルばね 50 が挿入され、次いでロック爪 40 が嵌め込まれる。このとき、ロック爪 40 に形成した突条 41 がガイド溝 24 と係合し、これによりロック爪 40 はがたつきなく摺動可能となる。コイルばね 50 は、上端に載置されるロック爪 40 を上方向（すなわち、ロック爪 40 が収納溝 23 から突き出す方向）に付勢する。

【0023】

フック部 21 の上壁 21 b には、収納溝 23 及びガイド溝 24 と対応する箇所にロック爪 40 の支持溝 21 c が形成してある。コイルばね 50 の付勢力によって上方に突出したロック爪 40 は、フック部 21 の正面開口部 21 a を閉塞するとともに、上端が支持溝 21 c に係合する。また、ロック爪 40 の上面は、図 2 に示す如く傾斜面 40 a としてあり、扉 2 の閉塞動作に伴いストライカ 10 がこの傾斜面 40 a に当接すると、その押圧力が傾斜面 40 a に作用してロック爪 40 を下方に押し下げる。これにより、フック部 21 の正面開口部 21 a は開放されて、ストライカ 10 がフック部 21 内に入り込む。ストライカ 10 の当接状態が解除されると、再びロック爪 40 はコイルばね 50 の付勢力をもって突出し、フック部 21 の正面開口部 21 a を閉塞する。その結果、ストライカ 10 はフック部 21 内に係合保持され、これにより扉 2 の閉塞状態が維持される。

【0024】

装置本体 20 に形成した収納溝 23 の後部壁面には、図 4（b）に示す如く縦方向に延びる切欠き孔 25 が形成してある。また、ロック爪 40 の背面には後述する操作ノブ 60 の押下爪 61 と係合する係合凸部 42（図 1 参照）が形成してあり、該係合凸部 42 が切欠き孔 25 を透して装置本体 20 の背面側に露出している。

【0025】

操作ノブ 60 には、図 2 に示す如く一对の軸受孔 62 が形成してあり、この軸受孔 62 が装置本体 20 の両側面に形成した支持凸部 26 に回動自在に嵌め込まれる。また、操作ノブ 60 には、押下爪 61 が形成してあり、上述したようにこの押下爪 61 がロック爪 40

10

20

30

40

50

に形成した係合凸部 4 2 の上面に係合する。したがって、コイルばね 5 0 の付勢力が係合凸部 4 2 を介して押下爪 6 1 に伝えられ、これにより操作ノブ 6 0 は図 1 の時計方向に回転付勢されている。

【0026】

一方、操作ノブ 6 0 は、図 2 に示す如く軸受孔 6 2 の近傍に形成した平坦部 6 3 が、装置本体 2 0 の当接面 2 7 に接触して上記時計方向の回転が規制される。この規制により、ロック爪 4 0 は、上端部がフック部 2 1 の上壁に形成した支持溝 2 1 c と係合する位置で止まり、それ以上の突出しが阻止される。また、操作ノブ 6 0 を図 1 の反時計方向に回転操作することで、押下爪 6 1 が係合凸部 4 2 を下方に押し下げるので、ロック爪 4 0 が下方に移動してフック部 2 1 の正面開口部 2 1 a を開放する。これにより、ストライカ 1 0 がフック部 2 1 内から移動可能となり、扉 2 を開放することができる。

10

【0027】

上述した構成の開閉ロック装置は、さらに装置本体 2 0 に、ストライカ 1 0 のがたつきを防止するための弾性支持片 3 0 を有している。すなわち、図 4 に示す如く、フック部 2 1 の両側面から各々側方に向かって弾性支持片 3 0 が延出している。なお、ストライカ 1 0 の中間軸部 1 0 a は、フック部 1 の幅を超えて、これら弾性支持片 3 0 と対向する長さを有している。

【0028】

各弾性支持片 3 0 は、フック部 2 1 の側面を支持端 3 0 a (固定端) とする片持ち片として、装置本体 2 0 のフック部 2 1 と一体成形されている。したがって、弾性支持片 3 0 は、装置本体 2 0 と同じ樹脂材料からなり、弾力的にたわみ変形可能となっている。また、弾性支持片 3 0 の支持端 3 0 a 付近は、図 5 に断面で示す如く先端部 3 0 b と比べ肉厚を薄くしてあり、これにより支持端付近を支点として弾性支持片 3 0 がしなやかにたわみ変形できるようになっている。さらに、弾性支持片 3 0 の先端部 3 0 b は、その前面が図 5 に示す如くフック部 2 1 における後部壁 2 1 d の内面よりやや前方に配置してある。したがって、フック部 2 1 に入り込んだストライカ 1 0 は、その中間軸部 1 0 a の両端部分がまず弾性支持片 3 0 に当接してそれを弾力的にたわませる (図 5 (b) 参照)。

20

【0029】

次に、図 5 を参照して、扉閉塞時における弾性支持片 3 0 の作用を説明する。扉 2 の閉塞時、ストライカ 1 0 は、まずロック爪 4 0 の傾斜面 4 0 a に当接し、その押圧力によってロック爪 4 0 が押し下げられてフック部 2 1 の正面開口部 2 1 a が開放する。これにより、ストライカ 1 0 がフック部 2 1 内に入り込むとともに、弾性支持片 3 0 とまず当接し、続いてフック部 2 1 の後部壁 2 1 d に当接する (図 5 (b) 参照)。ここで、弾性支持片 3 0 は、同図に示す如くストライカ 1 0 の当接に伴い弾力的にたわみ変形するため、破壊することはない。

30

【0030】

ストライカ 1 0 がフック部 2 1 内に入り込むと、ロック爪 4 0 がフック部 2 1 の正面開口部 2 1 a を閉塞されているので、ストライカ 1 0 はフック部 2 1 内に保持され、扉 2 の閉塞状態が維持される。また、このとき弾性支持片 3 0 は元の状態に復元しており (図 5 (c))、ストライカ 1 0 を後方より支持する。これにより、ストライカ 1 0 はロック爪 4 0 と弾性支持片 3 0 との間に挟まれ、がたつきを防止される。

40

【0031】

また、図 6 (a) (b) に示す如く、フック部 2 1 に対してストライカ 1 0 が傾きをもって押し込まれてきたときでも、該ストライカ 1 0 がフック部 2 1 の後部壁 2 1 d と当接する以前に、いずれか一方の弾性支持片 3 0 と当接して緩衝するので、フック部 2 1 の後部壁 2 1 d を衝撃から保護することができる。しかも、この場合であっても、いずれか一方の弾性支持片 3 0 とロック爪 4 0 とが協同してストライカ 1 0 を保持するので、該ストライカ 1 0 のがたつきが防止される。

【0032】

上述した構成の開閉ロック装置は、装置本体 2 0 が樹脂成形品であり、フック部 2 1 及び

50

弾性支持片 30 も装置本体 20 と一体に形成されるため、これら各部の組付け作業が必要なく、組み立て作業が容易である。

【0033】

図 7 及び図 8 は本発明の他の実施形態を示す図である。なお、先に示した図 2 及び図 3 と同一又は相当部分には同一符号を付し、特徴部分以外は詳細な説明を省略する。

この実施形態では、弾性支持片 30 を装置本体 20 の上面から上方に延出して形成してある。更に具体的には、フック部 21 の両側方位置で、ストライカ 10 を受け止めるように一対の弾性支持片 30 が形成してある。

【0034】

この実施形態でも、各弾性支持片 30 は、装置本体 20 の上面を支持端 30 a (固定端) 10 とする片持ち片として、装置本体 20 と一体成形されている。したがって、弾性支持片 30 は、装置本体 20 と同じ樹脂材料からなり、弾力的にたわみ変形可能となっている。また、弾性支持片 30 の支持端 30 a 付近は、先端部 30 b と比べ肉厚を薄くしてあり、これにより支持端付近を支点として弾性支持片 30 がしなやかにたわみ変形できるようになっている。さらに、弾性支持片 30 の先端部 30 b は、その前面がフック部 21 における後部壁 21 d の内面よりやや前方に配置してある。

【0035】

したがって、フック部 21 に入り込んだストライカ 10 は、その中間軸部 10 a の両端部分がまず弾性支持片 30 に当接してそれを弾力的にたわませる。その後も弾性支持片 30 はストライカ 10 を後方より支持し、これにより、ストライカ 10 はロック爪 40 と弾性 20 支持片 30 との間に挟まれ、がたつきを防止される。

【0036】

図 9 及び図 10 は本発明の他の実施形態を示す図である。なお、これらの図面においても、先に示した図 2 及び図 3 や図 7 及び図 8 と同一又は相当部分には同一符号を付し、特徴部分以外は詳細な説明を省略する。

この実施形態においても、一対の弾性支持片 30 を装置本体 20 の上面で且つフック部 21 の両側方位置から延出して形成してある。ただし、弾性支持片 30 は、フック部 21 の後部壁 21 d よりも前方位置に形成してあり、ストライカ 10 の両側軸部 10 b と弾力的に当接するように構成してある。

【0037】

この実施形態でも、各弾性支持片 30 は、装置本体 20 の上面を支持端 30 a (固定端) 30 とする片持ち片として、装置本体 20 と一体成形されている。したがって、弾性支持片 30 は、装置本体 20 と同じ樹脂材料からなり、弾力的にたわみ変形可能となっている。また、弾性支持片 30 の支持端 30 a 付近は、先端部 30 b と比べ肉厚を薄くしてあり、これにより支持端付近を支点として弾性支持片 30 がしなやかにたわみ変形できるようになっている。さらに、弾性支持片 30 の先端部 30 b は、その側面が図 10 (a) (b) に示す如く、ストライカ 10 の両側軸部 10 b が入り込む軌道よりもやや内側 (フック部 21 寄り) に配置してある。

【0038】

したがって、フック部 21 に入り込んだストライカ 10 は、その両側軸部 10 b の両端部 40 が弾性支持片 30 に当接して保持され、がたつきを防止される。

【0039】

なお、この発明は上述した実施形態に限定されるものではなく、例えば、自動車室内のグローブボックス以外の用途にも適用可能であることは勿論である。

【0040】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明の開閉ロック装置によれば、ストライカのがたつきを防止するための弾性支持片をフック部と一体に形成したので、同支持片をフック部に組付ける必要がなく、したがって組み立て工数が減少して作業性の向上と製品コストの低価格化を実現することができる。

10

20

30

40

50

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明の実施形態に係る開閉ロック装置の外観を示す側面図である。

【図２】本発明の実施形態に係る開閉ロック装置の分解斜視図である。

【図３】本発明の実施形態に係る開閉ロック装置を示す図で、（ａ）は平面図、（ｂ）は正面図、（ｃ）は側面図である。

【図４】装置本体を示す図で、（ａ）は正面図、（ｂ）は背面図である。

【図５】本発明の実施形態に係る開閉ロック装置における弾性支持片の作用を説明するための平面断面図である。

【図６】本発明の実施形態に係る開閉ロック装置における弾性支持片の別の作用を説明するための平面断面図である。

【図７】本発明の他の実施形態に係る開閉ロック装置における装置本体を示す斜視図である。

【図８】同実施形態に係る開閉ロック装置を示す図で、（ａ）は平面図、（ｂ）は正面図、（ｃ）は側面図である。

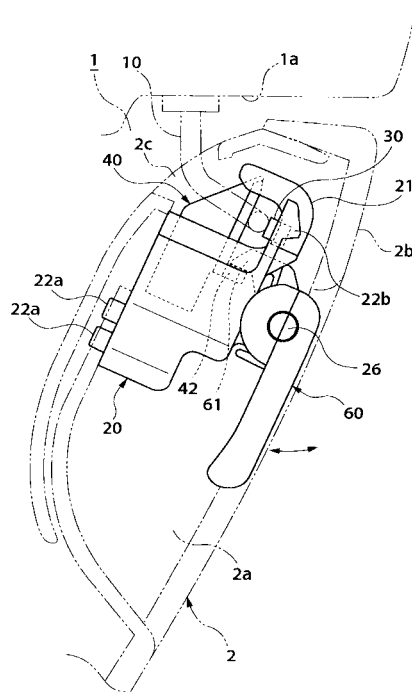
【図９】本発明の更に他の実施形態に係る開閉ロック装置における装置本体を示す斜視図である。

【図１０】同実施形態に係る開閉ロック装置を示す図で、（ａ）は平面図、（ｂ）は正面図、（ｃ）は側面図である。

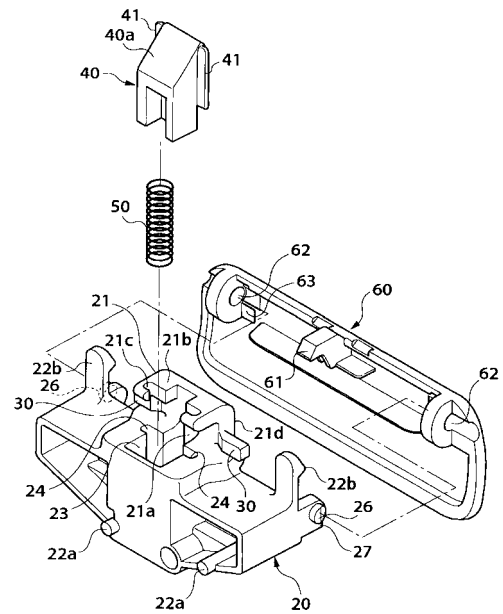
【符号の説明】

１：グローブボックス	１ ａ：開口縁部	20
２：扉		
１０：ストライカ	２０：装置本体	
２１：フック部	２１ ａ：正面開口部	
２１ ｂ：上壁	２１ ｃ：支持溝	
２１ ｄ：後部壁		
２３：収納溝	２４：ガイド溝	
２５：切欠き孔	３０：弾性支持片	
４０：ロック爪	４１：突条	
５０：コイルばね	６０：操作ノブ	
６１：押下爪	７０：後方支持部	30

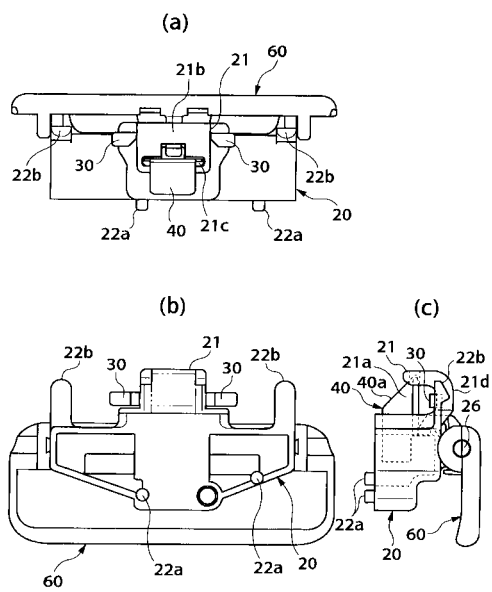
【図 1】



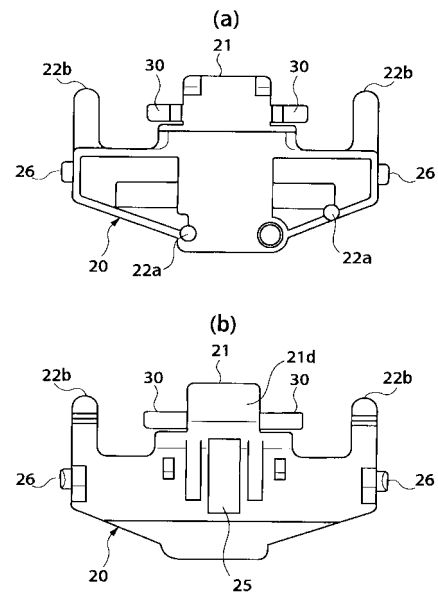
【図 2】



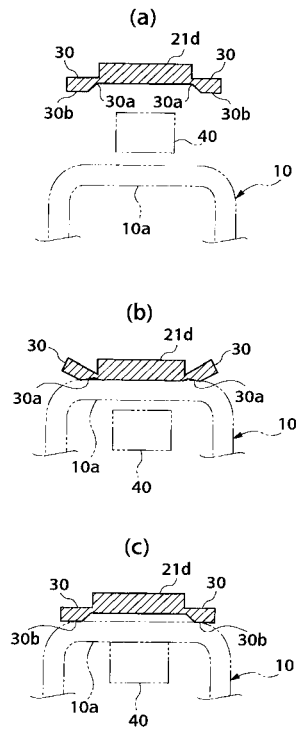
【図 3】



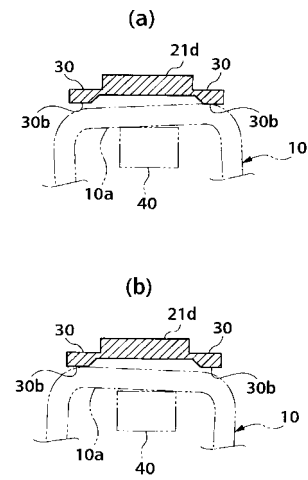
【図 4】



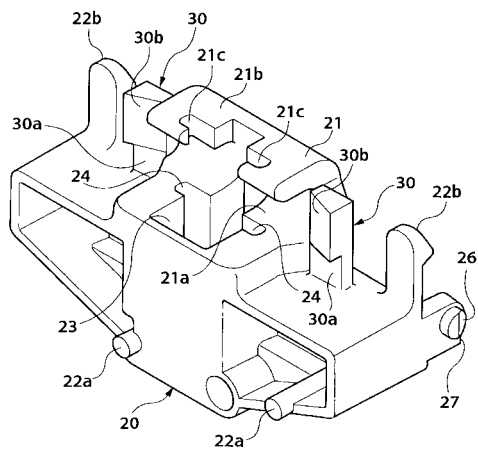
【図 5】



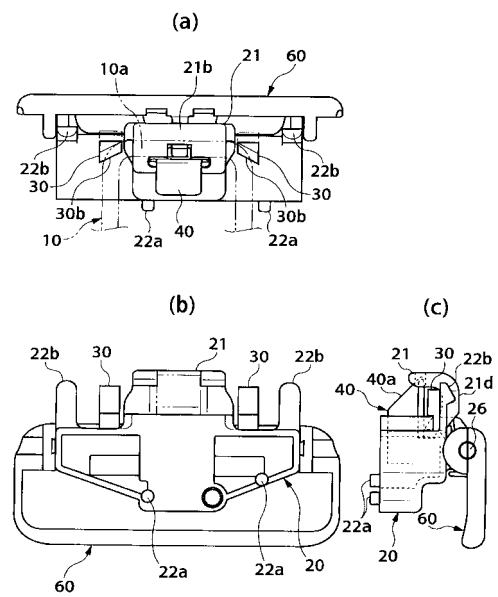
【図 6】



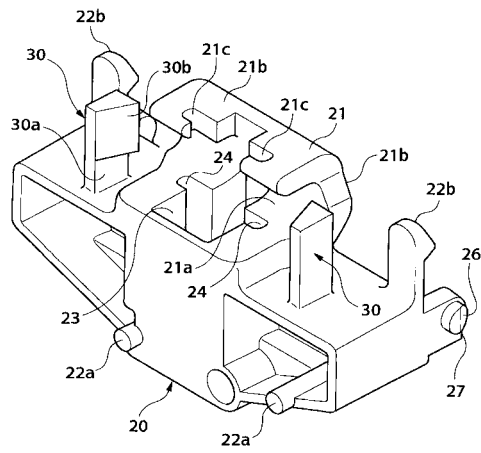
【図 7】



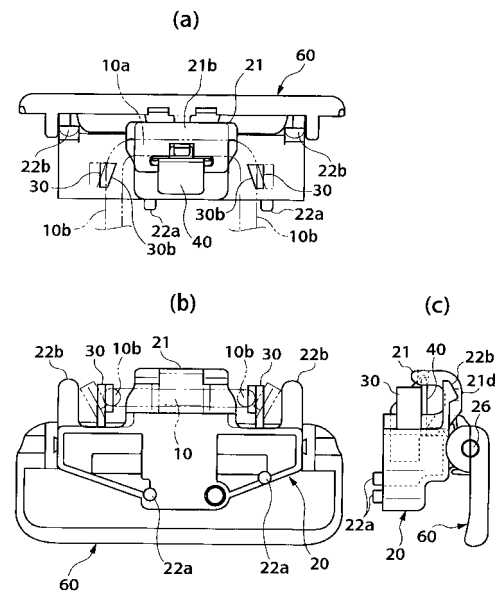
【図 8】



【図 9】



【図 10】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

E05C 19/06

B60R 7/06

E05C 21/00